



# 日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和5年 9月27日

第 7 号

さいたま市立日進中学校

TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

## 『陰徳を積む』

校長 小熊 誠

9月15日(金)、4年ぶりに、制限なし、フルサイズの日進中体育祭が開催されました。開催に至るまでは、酷暑や感染症と闘いながら、生徒たちの安心安全を第一に、限られた時間での練習・準備となりました。水分補給や休憩を細目にとったり、いったん冷房の効いた教室に入り体を冷やす時間をとったり、また、保護者の皆様の御協力のもと全クラスに日よけのテントを用意したり、種目の順番を入れ替えたり、日進が一つになり実施に向け尽力して参りました。当日は、保護者の皆様約1000名超の来場と、PTA役員の皆様の御協力も仰ぎ、グッドマナーのもと熱い声援で一層盛り上がりました。また、御近所の皆様には、練習期間も含め、生徒たちの大きな声等により、大変御迷惑をおかけいたしました。お蔭様で、保護者・地域の皆様の温かい御理解と御協力、そして御支援により、スローガン「一笑懸命」のもと、生徒たちの笑顔が輝いた1日となりました。特にプログラムNO.1の「日進体操」、皆で考えた魂のこもった地響きのような掛け声、やる気とワクワク感に溢れた楽しさいっぱい笑顔、素晴らしい生徒全員による集団演技でした。また一つ、日進の自慢が増え、伝統が創られました。



そして、いよいよ新人戦が始まります。日進の顔が、3年緑から2年黄色へと引き継がれていきます。そこで、本号では、日進がさらに「メガ進化」するために、必要となる大事な話をします。それは、『陰徳を積む』ということです。この言葉(精神)は、銀行業界の元祖、安田善次郎さんが、幼いころから父親に叩き込まれた言葉(精神)です。「人に褒められようとして善行を施すのではなく、誰にも知られずとも人のためになることを黙々と行おう」ということです。履物を揃えたり、落ちていたゴミを拾ったり、朝近所を掃除したり、そんな当たり前前の行いが自然とできるようになると、必ず「運」が向いてきます。最後の勝負の分かれ目である「運」は自分自身で掴むものなのです。『陰徳を積む』ことにより心が磨かれ、人間力が向上します。すると不思議と周囲から認められ、皆に心から応援される人間に進化します。もしかしたら、素晴らしい体育祭が実施できたのは、体育の先生方や体育委員の生徒たちが、毎日朝早くから、校庭を整備し、ラインを整え、道具を用意してくれたおかげかもしれません。また、県学総でアベック優勝した日進の卓球部は、閉会式の後、男女で会場である体育館の掃除を黙々と行っていました。彼らにとってこれらは、当たり前前のことなのかもしれません。しかし、その当たり前前のことを、当たり前に行っていたことが、最後に「運」を引き寄せてくれたに違いありません。それでは、日進にとっての当たり前前、「陰徳」とは何でしょうか？それは、校訓であり、学校教育目標であり、生活目標であり、目指す生徒像であると思います。そして、生徒・教職員・保護者・地域の皆様全員で、その当たり前前を徹底し、当たり前前のレベルをさらに向上させていくことが、日進の「メガ進化」へ繋がる第一歩となると確信しています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、2学期はこの後も行事が目白押しです。さらなる日進の活躍に御期待ください。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校